



祐介の目

No.142

大田祐介 (福山市議会議員)

乗り鉄のススメ

全国の赤字ローカル鉄道が存続の危機にある。私が若い頃、夜行列車は登山の必需品だった。福山駅21時30分発の「あさかぜ」に乗り、5時に富士駅着、タクシーで富士山5合目へ向かう。スキーを背負い昼頃登頂、大滑降の後にまた富士駅から「サンライズ瀬戸」に乗り、翌朝6時に岡山着。福山から一人33時間で富士山往復は夜行列車の存在抜きには実現できない。

大阪発の「きたぐに」も懐かしい。仕事が終わって新大阪23時発に乗れば5時に富山着、富山地鉄く黒部アルペンルート経由で9時には標高2300mの室堂に着いた。驚くほど時間の有効利用が可能な夜行列車、今こそ見直され復活させるべきだろう。

私が早朝に山野峡大田ワイナリー向かう際、反対方向は芦田川右岸・左岸共に毎朝大渋滞である。なぜもつと福塩線が活用されないのか不思議

イドを提案したい。路線も単純なので自動運転バスも可能かもしれない。

また、年に一回、福塩線ワイナリーの旅がある。山野峡ワイン、せらワイン、三次ワインの3種類を飲みながら、私達ワイナリースタッフの解説に耳を傾け車窓の田園風景を眺めれば三次までの片道約2時間はあつと言う間だ。この飲みながらの旅は鉄道ならではの特典だ。昔は懐かしい食堂車や車窓越しの駅弁の販売、駅前には必ずその地方の名物料理店があった。ワイン列車も回数を増やして福塩線再生の切り札としたいものだ。

コロナ禍において大阪く下関間を特急「銀河」が走った。乗客は少なかつたが物産協会を中心に駅舎内で様々なおもてなしを行い、私も銀河のヘッドマークをあしらった銀河ワインを限定販売した。皆様も積極的な鉄道利用により路線の維持にご協力いただきたい。いつか銀河鉄道999にも乗れるかもしれない。